



思い出の  
ランドセルギフト

## 委員会だより No.3



東京むかで・石巻広域・神戸ポート・奈良・その他ワイズメンズクラブ&有志のメンバー

今号では、4つの実践について報告いたします。

1. ランドセルが繋ぐ IBC 締結～ネパールの子どもたちへのランドセル寄付～
2. コンゴからやってきた児童への支援
3. 中学校教材(下田市立中学校)
4. 小学校教材(神戸市立小学校)

### 1. ランドセルが繋ぐ IBC

昨年11月3日から5日まで第30回アジア太平洋地域大会が香港で開催されました。その最終日、石巻広域クラブのスポンサークラブ仙台青葉城クラブ(加藤重雄会長)とネパール・ルンビニクラブとのIBC締結式が利根川アジア太平洋地域会長始め関係者が見守るなかで行われました。

2011年3月に発生した東日本大震災支援活動で協働関係にあった東京むかでクラブ、神戸ポートクラブ、石巻広域クラブの3DBCとプロジェクトの趣旨に賛同する有志クラブは、2021年にアフガニスタンの子どもたちにランドセルを贈る運動を推進するため実行委員会を立ち上げました。活動を進める中で2022年には仙台青葉城クラブの加藤会長の働きでモンゴルの子どもたちに約800個を贈り、そして本年8月には在仙ネパール人協会支部長のハリ氏との出会いがあり、500個をネパールの子どもたちに贈ることになりました。

9月例会にはハリ氏の仙台青葉城クラブへの入会式が行われ、急遽オンラインで出席された利根川会長、ルンビニクラブの初代会長マンダリ氏(現南東アジア区理事)と加藤会長はじめメンバーとの出会いがあり、今回のIBC締結に至りました。

11月5日、大会最終日に急遽病気のため入院された加藤会長の代理として菊地弘生ワイズが大会に参加し、マンダリ氏との間で調印式が行われました。両クラブのIBC締結をお祝い申し上げます。(写真は石巻広域クラブ11月号ブリテンより転載)



↑ IBC 締結式記念撮影 (左より清水、板村、山田、利根川、菊地、マンダリ、ASD-IBC Frank Tsai)

↓ 下：左調印式 右記念品交換



### 2. コンゴからやってきた児童への支援

今年度に入り7月、川越クラブ利根川ワイズよりさいたま市の小学校に通うコンゴ民主共和国からの難民申請中の3名の子どもたちにランドセルを贈りたいとの要請があり、役員会で協議してすぐ発送しました。川越クラブより贈呈してまもなく、転入した小学校の校長先生より丁寧な礼状がクラブ宛てに届きました。まだ十分な行政の支援を受けることができない状態の中、元気に学校に通い、学びたいという意欲が感じられると喜んでいただきました。

## 石巻広域ワイズメンズクラブ 様

この度は、コンゴ民主共和国から本校に転入してまいりました児童3名  
ダイアナ (DAYANA) 小学6年生、ダシアン (DARCIAN) 小学3年生  
ダフィナ (DAVINA) 小学1年生 のために、ランドセルを  
御寄贈いただき本当にありがとうございます。

3名の児童は、令和5年3月に御家族とともに来日し、約3  
か月を経て、公益財団法人 アジア福祉教育財団 難民事業  
本部の支援を得ることができ、また、認定NPO法人 難民支援  
協会の支援を受けて、さいたま市立大砂土小学校の学区内に住所を定め、令和5年6月か  
ら本校に通うことができるようになりました。

保護者の方が難民申請をされている段階であり、十分な行政の支援を受けることができ  
ない状態ではありますが、学校に通い、学びたいという意欲は、子どもたちからも、また  
保護者の方からも強く感じるどころです。



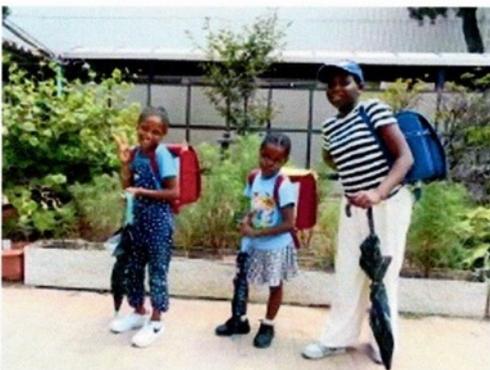
言語がフランス語であり、十分なコミュニケーション  
を図ることは難しいのですが、学校生活を楽しんでいる  
姿はとても微笑ましいです。いただきましたランドセル  
は、3名ともとても嬉しいようで、毎日、背負って学校  
に通っております。石巻広域ワイズメンズクラブの皆様  
の御厚意に報いることができるように、私たちも子ども  
たちの笑顔のために努めてまいります。

皆様の活動が益々の御発展することをお祈りし、略儀ではございますが、御礼とさせて  
いただきます。

令和5年7月21日

さいたま市立大砂土小学校

校長 山下保夫



DAYANA  
DARCIANE  
DAVINA

## コンゴ民主共和国って、どんな国？

1997年以前の旧国名はザイール。アフリカ大陸の中央に位置し、ウガンダ、タンザニア、ザンビアなど9カ国と国境を接し、西部は大西洋に接する広大な国です。首都はキンシャサ。旧ベルギーの植民地であったことから、現在でも公用語はフランス語。コバルト、金、ダイヤモンドなど豊富な地下資源を有していますが、長年の内戦や近隣国との紛争で国土は荒廃し、経済も危機的状態にあります。



### 3. 中学3年生 英語教科書 NEW HORIZON

思い出のランドセルギフトの活動を紹介する内容が、中学校3年生の教科書に記載されていることを知り、早速教科書を購入し、内容を調べてみました。

そこで、まず驚いたことは、中学校の教科書が驚くほど進化した！内容になっていることです。

私は団塊の世代ですので、今は70代となっていますが、私の中学生時代の英語の授業を思い出すと、大変に幼稚な？「This is a pen. That is a book. I am Keiko……」であったと思います。皆様の中学時代はいかがですか？

実は来年の1月に、現在暮らしている伊豆の下田中学校3年生に、英語の授業に関連した国際理解授業をすることになり、中学3年生の生徒たちの学びに協力する予定です。

その様子は、来年の便りで改めて紹介しますが、今回は、ワイズメンズクラブの皆様と中学生3年生の教科書を通して、現在の中学生がどのようなことを学んでいるのかの情報を共有したいと思います。( ) は、私の説明です。

#### 1. SDGs 持続可能な世界の為に

(この教科書の主題として、最初に記載されています) 今の世代の人も将来の世代の人も幸せに暮らしていける【持続可能な世界】を実現するために、私達はどんなことができるでしょうか？英語を通じて、世界を見つめ直し考えを深めていきましょう。

Unit 1 : Sports for Everyone

スポーツの力を考える

Unit 2 : Haiku in English

伝統的な文化や言語を尊重する

Unit 3 : Animals on the Red List

貴重な生態系を次世代に残す

Unit 4 : Be Prepared and Work Together

助け合って災害に備える

Unit 5 : A Legacy for Peace

平和と人権を守る

Unit 6 : Beyond Borders

国際的な視野を持つ

(ランドセルの活動は Unit6 のメインの内容、資料や写真はジョイセフ提供です)

Unit 6 Beyond Borders

Goal : 国を超えて助け合う大切さを知り、自分に何ができるのかを考える。

架空の状況について説明したり、感想や意見を述べたりすることができる。

Point of View : How do we build good relations with foreign countries ?

(海斗君とメグさんが、会話をしながらすすめていく内容になっています。)

1. 海斗は興味深い国際協力のキャンペーンについての広告を目にしました。

School backpacks travel overseas

(国際協力キャンペーンの広告の内容)

“I wish I could go to school”. “I wish I had pens and notebooks.” Children in some parts of the world feel this way. We are running a campaign to help them. Send us unused school supplies, and we will give them to those children. You can also donate your old school backpack. It can have a new life overseas.

2. 海斗はメグに海を渡るランドセルの話をしました。

Kaito: Have you ever heard of groups that collect Japanese school backpacks? They send them overseas.

Meg: I've never heard of them, but it's a great idea. Japanese school backpacks are cool.

Kaito: They send them to children in Afghanistan. So far, more than 200,000 backpacks have been sent. I've already sent mine.

Meg: Wow. If I were a Japanese student, I would send my old backpack.

Kaito: Actually, you can help them by donating other things, like pencils and notebooks.

Meg: Really? That's great. I'll definitely do that.

3. 海斗はキャンペーンについて調べたことをスピーチしています。

Imagine your life without school. If you didn't study, you couldn't read or write. If you were illiterate, you couldn't get information through books or websites. In some parts of the world, there

are children living like this.

Children like these in Afghanistan receive school backpacks from Japan. It makes them happy. It also encourages their parents to send their sons and daughters to school.

Most of the backpacks come with pens and notebooks. So, students will be ready for school. In areas with no school buildings, children can use the backpacks as desks in the open air. In these ways, school backpacks from Japan have been changing children's lives.

School backpacks from Japan travel to Afghanistan. They help the school children there. Other goods and services travel from one country to another all around the globe. These exchanges connect and help us all. Our borders are only lines on a map. (一部省略します)

Our relationships with foreign countries are becoming more and more interdependent. It's necessary for us to continue helping each other – beyond our borders.



さて皆さま、中学生のレベルの高さを再認識されましたでしょうか？

ランドセルを送る活動によって、Beyond Borders 国際的な視野を持ち、協力し合うことの大切さを学んでいます。

#### 4. 「ランドセルは海をこえて」の授業

小学校4年生国語光村出版  
神戸市立名谷小学校  
7月14日～7月19日

< 1 時間目(7月14日)>

教科書教材を読んで

- 題名を見て思ったこと
- 初めて読んでみて思ったこと

< 2 時間目(7月18日)>

タブレットを使って調べよう

○「アフガニスタンへのランドセル支援」について調べてみよう

○調べたことを伝えよう

- ・アフガニスタンの子どもたちの声:「こんなに素敵なランドセルと学用品をもらえるなんて。天国のお父さんがゆめをかなえてくれたんだと思いました。」この子は、戦争でお父さんをなくしていました。
- ・日本からアフガニスタンに大量のランドセルが送られている。6年生が終わって中学生になった山形県立東高等学校から308個もランドセルを送ろうと、「笑顔大作戦」を作っている。
- ・どうしてアフガニスタン? :アフガニスタンの女子は学校に来れないという子が多いです。子どもたちにランドセルを配るのは、学校に行くきっかけをつくるためです。内堀タケシさんは、アフガニスタンに行って以来20年ほど現地の日常を追ってきた人です。ランドセルを背負ってよるこんでいる子どもたちの様子を伝えるのが内堀さんの仕事です。

< 3 時間目(7月19日)>

ZOOM 会議室を使ってお話を聞こう!

○ジョイセフの方からお話を聞いてみよう



千葉県と神戸をつないで (多目的教室にて)



< 4 時間目(7月19日)>

○お話を聞いて、考えたことをまとめよう。

- ・使わないはがきがお金になるんだったら、書

きまちがえた時は家族にたのんでお金にしてもらいたいと思った。今、しあわせなのは当たり前なことじゃないんだな、と思って、毎日を楽しく思えるようになりたい。自分も小学校を卒業したら、ランドセルを届けるようにする。アフガニスタンの女の子は、差別されていて、学校に行けない子もいて、かわいそうだった。アフガニスタンの子どもは、学校に行きたがっているのに、雨がふったら休みになるのは、かわいそうだと思った。自分がアフガニスタンの子どもだとしたら、早く戦争が終わってほしいと思っているはずです。今のアフガニスタンの子どもたちも、そう思っているんじゃないかな、と思いました。

- ・私は、外国の人みんなランドセルを持っていると思っていたけど、実際は、ランドセルを持っていない子やランドセルが高価な物という所があるなんてはじめて知ってびっくりしました。アフガニスタンの人々で一番びっくりしたのは、差別です。アフガニスタンの人々では、女の子は家の手伝いをすべきだったり、女の先生じゃないと女の子は勉強（学校）に来たらだめだったり、女の子と男の子が学校に行ける確率をくらべると、女の子は十人のうち四人、男の子は十人のうち七人が学校に行けるという三人の差だけとってしまうけど、けっこうちがうし、そもそも学校に行けない子がいるんだ

なと思った。

私たちの暮らしでは、平べったくて、とても安全次にびっくりしたのは、学校の行きしと帰りしは、とても平地（ひらべったい）の道ではないし、ころぶおそれも多い。行きしと帰りしは、とても危険な道になっています。な道でこけるおそれも少ない。それにアフガニスタンは、帰る時はだいたい集団行動で帰っているイメージがあるけど、日本では、友達といっしょに行き、いっしょに帰るし、一人で行っている人だっている。学校や屋根もなければかべすらない。それに下には布一つ、しかもその布を子どもたちが当番で持ち帰っている。今回はアフガニスタンのことについていろいろ教えてくれてありがとうございました。この話を聞いて、もっともっとアフガニスタンのことが知りたくなりました。これからももっともっとアフガニスタンのことで調べたいと思います。

#### <おわりに>

教科書では、読み物教材として、子供たちが世界に目を向ける一つの教材として扱われている。そこから一歩進んで、この教材に関心を持ち、もう少し調べてみたい、できれば話しを聞きたい、という子供たちの思いを大切に、今回の授業を行った。素直で純粋な心をもつ子供たちは、きっと卒業時に自分たちが大切にしたいランドセルの使い道を考えてくれることだろう。（大野勉）

#### ご寄付いただきたいもの

### 1. 寄付金：思い出のランドセルギフトプロジェクト運営・推進のための費用

（広報活動、通信費、国内輸送費等）

【寄付金振込口座】 事務局郵便振替：02290-8-136273 特定非営利活動法人 被災支援ネットワーク・東北ヘルプ

他金融機関からの振込の際は「ゆうちょ銀行 二二九店 当座預金 0136273」へお願いします。

### 2. ランドセル+海外輸送費（各クラブで集めてジョイセフへ直接お送りください。）

【ランドセル送付先】

〒143-0001 東京都大田区東海 4-7-7 鴻池運輸 大井物流営業所内

サンライト「ジョイセフランドセル」係

【振込先】 三井住友銀行 新宿通支店 普通 0922014 コウエキザイダンホウジンジョイセフ

詳細は、下記ジョイセフのウェブサイトをご覧ください。 URL: <https://joicfp.or.jp/rand>